



交付運用報告書

SOMPOターゲットイヤー・ ファンド2065

〈愛称〉ハッピーボヤージュ2065

追加型投信／内外／資産複合

作成対象期間：2022年3月18日～2022年11月2日

第1期 決算日：2022年11月2日



受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

当ファンドは、国内外の株式や債券を実質的な主要投資対象とし、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を目指して運用を行います。当作成期もそれに沿った運用を行いました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

今後とも引続きお引立て賜りますようお願い申し上げます。

第1期末 2022.11.2

基準価額	10,610円
純資産総額	48百万円
騰落率*	6.1%
期中分配金合計	0円

※ 騰落率は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）を電磁的方法によりご提供することを定めております。運用報告書（全体版）は下記の方法で閲覧いただけます。

なお、ご請求いただいた場合には交付いたしますので、販売会社までお問い合わせください。

▶ 運用報告書（全体版）の閲覧方法



<https://www.sompo-am.co.jp/>
にアクセス

「ファンド検索」等から当ファンドのページを表示して、
閲覧またはダウンロードすることができます。



SOMPOアセットマネジメント

東京都中央区日本橋二丁目2番16号 共立日本橋ビル
お問い合わせ先：リテール営業部

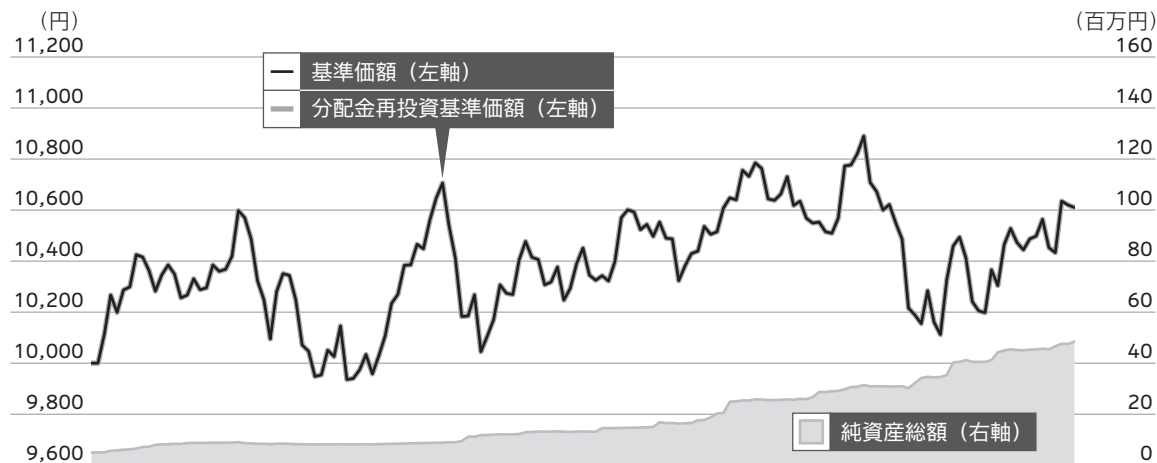
（受付時間 営業日の午前9時～午後5時）



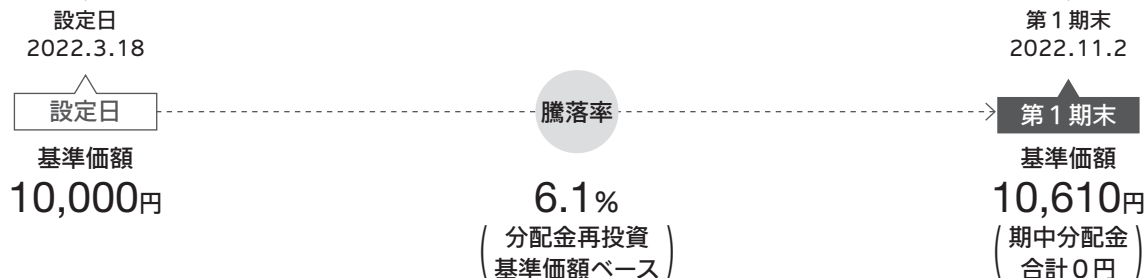
0120-69-5432

運用経過

● 基準価額の推移



基準価額の推移



- 分配金再投資基準価額の推移は、設定時の基準価額（10,000円）をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。
- 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- 当ファンドは、各マザーファンドでベンチマークを設定し比較しているため、ベンチマーク及び参考指数は記載しておりません。

● 基準価額の主な変動要因

SOMPOターゲットイヤー・ファンド2065

当期間、「SOMPO外国株式アクティブバリュー（リスク抑制型）マザーファンド」の基準価額が上昇したことを主因に、当ファンドの基準価額は上昇しました。外国株式の上昇が主な値上がり要因となりました。

損保ジャパン日本債券マザーファンド

騰落率は-2.5%となりました。

国内債券の利回りが上昇（価格は下落）したことから、基準価額は下落しました。

S J A M ラージキャップ・バリュー・マザーファンド

騰落率は+8.3%となりました。

当ファンドの騰落率はベンチマークを上回り、同期間の国内株式市場も上昇したことから、当ファンドの基準価額も上昇しました。

S J A M スモールキャップ・マザーファンド

騰落率は+9.0%となりました。

当ファンドの騰落率はベンチマークを上回り、同期間の国内株式市場も上昇したことから、当ファンドの基準価額も上昇しました。

損保ジャパン外国債券（為替ヘッジなし）マザーファンド

騰落率は+5.3%となりました。

米国債券や欧州債券などの利回りは上昇しましたが、円に対して米ドルやユーロなどの主要国通貨が上昇したことから、基準価額は上昇しました。



SOMPO外国株式アクティブバリュー（リスク抑制型）マザーファンド

騰落率は+12.0%となりました。

当ファンドの騰落率はベンチマークを上回り、同期間の外国株式市場が上昇したことから、当ファンドの基準価額は上昇しました。



SNAM コルチェスター・エマージング債券マザーファンド

騰落率は+14.1%となりました。

世界的に政策金利が引き上げられる傾向が一段と鮮明となる中、新興国でも利上げが行われたことなどから債券利回りは総じて上昇し、債券価格は下落しました。また、世界景気の見通し悪化懸念が浮上し、リスク回避的な市場環境になったことも重石となりました。一方、一部通貨を除き新興国通貨が対円で上昇したことなどから、当ファンドの基準価額は上昇しました。

- 本報告書では、ベビーファンドとマザーファンドを下記の様に統一して表記しています。



ベビーファンド



マザーファンド

● 1万口当たりの費用明細

項目	第1期 2022.3.18~2022.11.2		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬	81円	0.783%	(a) 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率 (年率) × $\frac{\text{期中の日数}}{\text{年間の日数}}$ 期中の平均基準価額は10,396円です。
(投信会社)	(36)	(0.347)	ファンドの運用の対価
(販売会社)	(43)	(0.416)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
(受託会社)	(2)	(0.021)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	8	0.078	(b) 売買委託手数料 = $\frac{\text{期中の売買委託手数料}}{\text{期中の平均受益権口数}}$ 有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(株式)	(3)	(0.033)	
(投資信託証券)	(5)	(0.045)	
(c) 有価証券取引税	0	0.004	(c) 有価証券取引税 = $\frac{\text{期中の有価証券取引税}}{\text{期中の平均受益権口数}}$ 有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(株式)	(0)	(0.004)	
(投資信託証券)	(0)	(0.000)	
(d) その他費用	25	0.238	(d) その他費用 = $\frac{\text{期中のその他費用}}{\text{期中の平均受益権口数}}$
(保管費用)	(24)	(0.229)	有価証券等の保管等のために、海外の銀行等に支払う費用
(監査費用)	(1)	(0.008)	監査法人に支払うファンドの監査にかかる費用
(その他)	(0)	(0.001)	信託事務の処理にかかるその他の費用等
合計	114	1.103	

注1. 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

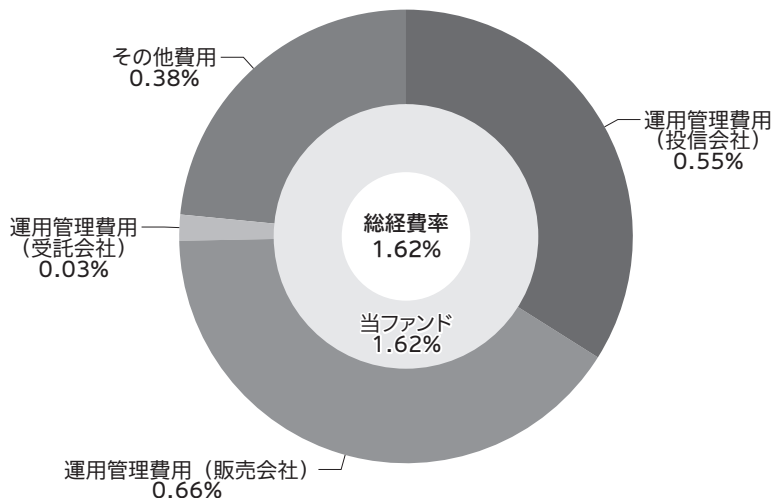
注2. 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

注3. 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(参考情報)

○総経費率

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した**総経費率（年率）は1.62%**です。



1万口当たりの費用明細

注1. 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

注2. 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

注3. 各比率は、年率換算した値です。

注4. 当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含みます。

注5. 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

● 最近5年間の基準価額等の推移 2017.11.2~2022.11.2



- 分配金再投資基準価額の推移は、設定時の基準価額（10,000円）をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。
- 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- 当ファンドは、各マザーファンドでベンチマークを設定し比較しているため、ベンチマーク及び参考指数は記載しておりません。

決算日		2022.3.18 設定時	2022.11.2 決算日
基準価額	(円)	10,000	10,610
期中分配金合計（税引前）	(円)	—	0
分配金再投資 基準価額騰落率	(%)	—	6.1
純資産総額	(百万円)	5	48

● 投資環境

1. 日本債券市場

当期の日本10年国債利回りは上昇しました。

欧米でインフレ率が急速に上昇したことを受けて欧米の中央銀行が金融政策を引き締め方向に転換し、日銀についてもこれまでの緩和的金融政策を転換するとの思惑が高まり利回りは上昇しました。2022年4月以降は、利回りの上昇圧力が高まる中、日銀のイールドカーブ・コントロール政策により、10年国債利回りは0.25%近傍で推移しました。

事業債のスプレッドは、世界的なインフレおよび景気後退懸念から、リスク資産を避ける動きが強まり、拡大しました。

2. 日本株式市場

TOPIXは1.6%の上昇となりました。

期初はFRB（米連邦準備理事会）による積極的な金融引き締めスタンスおよび上海における都市封鎖の影響による中国景気の減速やサプライチェーンに対する懸念の高まりが下押し圧力となった一方、円安や日本の水際対策の緩和などを受けて小幅に上昇しました。

その後は世界的な金融引き締めを背景とした景気後退懸念が下押し圧力となった一方、参議院選挙にて自民党が大勝したことなどを背景とした政治環境の安定が押し上げ要因となり緩やかに上昇しました。期末にかけては高いインフレ率の長期化懸念が残る一方、2023年以降のFRBの金融政策転換期待もあり一進一退の動きとなりました。

3. 外国債券市場

当期の米国10年国債利回りは、大幅に上昇しました。

米国ではインフレ高進が続く中、FRBによる金融引き締めが進められたことなどから、米国10年国債利回りは大幅に上昇しました。

4. 外国為替市場（主要通貨）

当期の米ドル円相場は、大幅な円安米ドル高となりました。

米ドル円相場は、FRBによる金融引き締めが進められた一方、日銀は金融緩和を継続し、日米の金融政策格差が拡大したことなどから、大幅な円安米ドル高となりました。

5. 外国株式市場

当期の外国株式市場は上昇しました。

新型コロナウイルスのワクチン接種と治療薬の普及などを背景に経済活動の再開が世界的に進む一方、ロシアによるウクライナ侵攻に伴う経済制裁や物流の混乱などで物価高が期を通じて進行し、各中央銀行は金融緩和から引き締めへと急激に舵を切ったことが懸念され、各国の株価は現地通貨ベースで下落しました。一方、企業業績は比較的堅調に推移したことに加え、国内では引き続き緩やかな金融政策が続いたことなどから円安が進行したことを背景として、円建てで株価は上昇しました。

6. エマージング債券市場

当期のエマージング債券市場の利回りは上昇しました。

ウクライナ侵攻を受けた欧米諸国による対ロシア経済制裁により原油などの資源価格が上昇したことや、インフレ懸念から世界的な金融引き締め観測が高まり、多くの新興国で利上げを開始したことなどから、エマージング債券市場の利回りは上昇しました。

7. 外国為替市場（エマージング通貨）

当期のエマージング通貨市場は対円で上昇しました。

米国の金融引き締めを受けたドル高がエマージング通貨の重しとなりましたが、世界的に金融引き締めが加速する中、日銀が金融緩和を継続し円が下落したことから、対円では上昇しました。

8. エマージング株式市場

当期のエマージング株式市場は下落しました。

期初は新型コロナウイルスの感染再拡大に伴い、上海を始めとする中国主要都市で都市封鎖が行われ、株価は下落しました。その後、中国政府による景気刺激策や金融緩和政策により反発する局面も見られましたが、中国での未完成不動産に対する住宅ローン支払い拒否の動きが本格化し、相場の重石となりました。

夏場以降は欧米諸国が利上げを進める中で新興国市場からの資金流出懸念が継続したことに加え、2022年10月に開催された中国共産党大会では台湾への強行姿勢が示されたことや、同大会後に発表された新体制への不安から、期を通じては、株価は下落しました。

● 当該投資信託のポートフォリオ

各ファンドの資産アロケーションについては、当社が決定した基準資産配分比率を、ほぼ維持する戦略を採りました。

SOMPOターゲットイヤー・ファンド2065実質組入比率

	基本アロケーション (当初設定時)	実質組入比率 (22年11月2日)
国内債券	5.3%	5.3%
国内株式	35.2%	35.2%
先進国債券	3.0%	3.0%
先進国株式	36.6%	36.0%
新興国債券	1.7%	1.7%
新興国株式	18.3%	17.7%
短期資産	0.0%	1.3%

損保ジャパン日本債券マザーファンド

期を通して債券の組入比率を高位に維持しました。期末の組入比率は、98.5%です。

デュレーション・残存期間戦略は、残存年限間の割安・割高に着目した残存期間構成戦略をもとに、ポジションを機動的に変更しました。

債券種別戦略は、非国債をオーバーウェイトする戦略を継続しましたが、オーバーウェイト幅は縮小しました。

S J AMラージキャップ・バリュー・マザーファンド

期を通して株式の組入比率を高位に維持しました。期末の組入比率は、97.6%です。

当期は、当社独自の株式評価モデルで算出した相対的割安度に基づいたポートフォリオ構築を継続しました。当期間に行った主な銘柄入れ替えは以下の通りです。

主な購入（ウェイトアップ）銘柄は、日本精工、王子ホールディングス、三井住友トラスト・ホールディングスなどでした。

主な売却（ウェイトダウン）銘柄は、三菱電機、セイコーエプソンなどでした。

S J AMスモールキャップ・マザーファンド

期を通して株式の組入比率を高位に維持しました。期末の組入比率は、97.3%です。

当期は、当社独自の株式評価モデルで算出した相対的割安度に基づいたポートフォリオ構築を継続しました。当期間に行った主な銘柄入れ替えは以下の通りです。

主な購入（ウェイトアップ）銘柄は、森永乳業、エン・ジャパン、UTグループなどでした。

主な売却（ウェイトダウン）銘柄は、パーク24、H. U. グループホールディングス、メイテックなどでした。

損保ジャパン外国債券（為替ヘッジなし）マザーファンド

期を通して債券の組入比率を高位に維持しました。期末の組入比率は、98.8%です。

国別配分戦略は、ドルやユーロの通貨戦略とユーロ圏の国別配分戦略を中心に、相場動向に合わせて、ポジションを機動的に変更しました。

デュレーション戦略は、米国と欧州を中心に相場動向に合わせて機動的にポジションを変更しました。

なお、為替ヘッジは行っておりません。

SOMPO外国株式アクティブバリュー（リスク抑制型）マザーファンド

期を通して株式の組入比率を高位に維持しました。期末の組入比率は、95.7%です。

ポートフォリオは弊社独自の投資価値分析に基づく相対的割安度の高い銘柄を中心に、ベンチマークと比較してリスク水準を抑えたポートフォリオ構築を継続しました。

主な購入（ウェイトアップ）銘柄は、Microsoft（米国・情報技術）やVisa（米国・情報技術）などでした。

主な売却（ウェイトダウン）銘柄は、American Express（米国・金融）やTelefonica（スペイン・コミュニケーション・サービス）などでした。

SNAM コルチェスター・エマージング債券マザーファンド

期を通して債券の組入比率を高位に維持しました。期末の組入比率は、96.0%です。

債券戦略については、インドネシア、コロンビア、ブラジルなどをオーバーウェイトとする一方、中国、タイ、チェコなどをアンダーウェイトとしました。通貨戦略については、韓国、メキシコ、マレーシアなどをオーバーウェイトとする一方、タイ、チェコなどをアンダーウェイトとしました。

期中の主なポジション変更は、債券戦略において、インドネシアのオーバーウェイト幅縮小やハンガリーのアンダーウェイト解消などを行いました。通貨戦略においては、中国のアンダーウェイトの構築やハンガリーをアンダーウェイトからオーバーウェイトに変更するなどしました。

● 当該投資信託のベンチマークとの差異

各ファンドは、各マザーファンドでベンチマークを設定し比較しているため、ベンチマーク及び参考指数は記載しておりません。期を通じて各マザーファンドを組入れておりましたので、以下ではマザーファンドとベンチマークとの差異の要因分析などについてご説明致します。

<損保ジャパン日本債券マザーファンドとベンチマークとの差異>

マザーファンドの騰落率は、NOMURA-BPI総合指数の騰落率（-2.5%）とほぼ同程度となりました。

デュレーション・残存期間戦略がプラス寄与した一方、非国債をオーバーウェイトする戦略や個別銘柄選択がマイナス要因となりました。

<SJAMラージキャップ・バリュー・マザーファンドとベンチマークとの差異>

マザーファンドの騰落率は、Russell/Nomura Large Cap Value インデックス（配当を含むトータルリターンインデックス）の騰落率（+7.5%）を0.9%上回りました。要因別では、業種配分効果はマイナス要因、個別銘柄選択効果はプラス要因となりました。業種配分効果では、繊維製品のオーバーウェイト、海運業、化学のアンダーウェイトなどがプラス要因、情報・通信業のアンダーウェイト、パルプ・紙、鉄鋼のオーバーウェイトなどがマイナス要因となりました。個別銘柄では麒麟ホールディングス、日揮ホールディングス、東レのオーバーウェイトなどがプラス要因、ソフトバンクグループのアンダーウェイト、スズケン、三菱UFJフィナンシャル・グループのオーバーウェイトなどがマイナス要因となりました。

<SJAMスモールキャップ・マザーファンドとベンチマークとの差異>

マザーファンドの騰落率は、Russell/Nomura Small Cap インデックス（配当を含むトータルリターンインデックス）の騰落率（+6.6%）を2.4%上回りました。要因別では、業種配分効果、個別銘柄選択効果ともにプラス要因となりました。業種配分効果では、輸送用機器、精密機器のオーバーウェイト、食料品のアンダーウェイトなどがプラス要因、銀行業のオーバーウェイト、ゴム製品、陸運業のアンダーウェイトなどがマイナス要因となりました。個別銘柄ではシチズン時計、青山商事、クレディセゾンのオーバーウェイトなどがプラス要因、日本テレビホールディングス、森永乳業、UTグループのオーバーウェイトなどがマイナス要因となりました。

<損保ジャパン外国債券（為替ヘッジなし）マザーファンドとベンチマークとの差異>

マザーファンドの騰落率は、FTSE世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）の騰落率（+4.7%）を0.6%上回りました。

ドルをオーバーウェイトし、ユーロをアンダーウェイトする通貨戦略が主にプラス要因となりました。

<SOMPO外国株式アクティブバリュー（リスク抑制型）マザーファンドとの差異>

マザーファンドの騰落率は、MSCIコクサイ インデックス（配当込み）の騰落率（+8.0%）を4.0%上回りました。急激な金融引き締めが世界的に進む中、割安な銘柄中心にリスク水準を抑えたポートフォリオを継続したことがプラスに作用しました。個別銘柄においては、Novo Nordisk（デンマーク・ヘルスケア）やMerck（米国・ヘルスケア）のオーバーウェイトなどがプラス要因となったものの、Adidas（ドイツ・一般消費財）やAdobe（米国・情報技術）のオーバーウェイトなどがマイナス要因となりました。

<SNAM コルチェスター・エマージング債券マザーファンドとベンチマークとの差異>

マザーファンドの騰落率は、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックスーエマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド（除くBB-格未満・ヘッジなし）の騰落率（+8.7%）を5.4%上回りました。

債券国別要因では、コロンビアのオーバーウェイトがマイナスに寄与した一方、ハンガリーのアンダーウェイトなどがプラスに寄与しました。また、ロシア債が評価額を上回る価格で売却できたことがプラスに寄与しました。通貨配分要因では、タイのアンダーウェイトがマイナスに寄与した一方、メキシコのオーバーウェイトなどがプラスに寄与しました。

● 分配金

各ファンドの収益分配金については、基準価額の水準等を勘案し、次表の通りと致しました。なお、収益分配に充てなかった収益は、信託財産に留保し、運用の基本方針に基づいて引き続き元本と同一の運用を行います。

分配原資の内訳 (単位：円、1万口当たり・税引前)

項目	第1期 2022.3.18~2022.11.2
当期分配金	—
(対基準価額比率)	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	610

注1. 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

注2. 円未満は切り捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税引前）に合致しない場合があります。

注3. 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

中長期的な観点から、複利効果による資産の成長を目指すために分配を抑えるファンドです。

● 今後の運用方針

SOMPOターゲットイヤー・ファンド2065

マザーファンドの受益証券などへの投資を通して、国内株式・国内債券にとどまらず世界各国の株式および債券に積極的に分散投資を行うことによって、リスクを軽減しつつ信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を目指します。

損保ジャパン日本債券マザーファンド

当社の投資哲学に基づいた運用プロセスを堅持し、独自の投資環境モデルによる相場の方向性分析を加味して戦略を決定していくことを基本方針とします。今後も、金利戦略、債券種別戦略、個別銘柄選択を中心とするポートフォリオ構築によって、中長期的に着実な信託財産の成長を目指します。

S J AMラージキャップ・バリュー・マザーファンド

当社の投資哲学に基づいた運用プロセスを堅持し、独自の株式評価モデルで算出した相対的割安度に基づき銘柄を選択していくことを基本方針とします。今後も、固有の割安要因に着目した個別銘柄選択を中心とするポートフォリオ構築によって、中長期的に着実な信託財産の成長を目指します。

S J AMスモールキャップ・マザーファンド

当社の投資哲学に基づいた運用プロセスを堅持し、独自の株式評価モデルで算出した相対的割安度に基づき銘柄を選択していくことを基本方針とします。今後も、固有の割安要因に着目した個別銘柄選択を中心とするポートフォリオ構築によって、中長期的に着実な信託財産の成長を目指します。

損保ジャパン外国債券（為替ヘッジなし）マザーファンド

国別配分戦略は、ドルやユーロの通貨戦略とユーロ圏の国別配分戦略を中心に、相場動向に合わせて、ポジションを機動的に変更し、収益機会を増やす方針とします。

デュレーション戦略は、米国と欧州を中心に相場動向に合わせて、機動的にポジションを変更し、収益機会を増やす方針とします。



SOMPO外国株式アクティブバリュー（リスク抑制型）マザーファンド








今後の運用においても、当社の投資哲学に基づいた運用プロセスを堅持し、独自の株式評価モデルで算出した相対的割安度の高い銘柄を中心に、ベンチマークと比較してリスク水準を抑えたポートフォリオ構築を継続します。



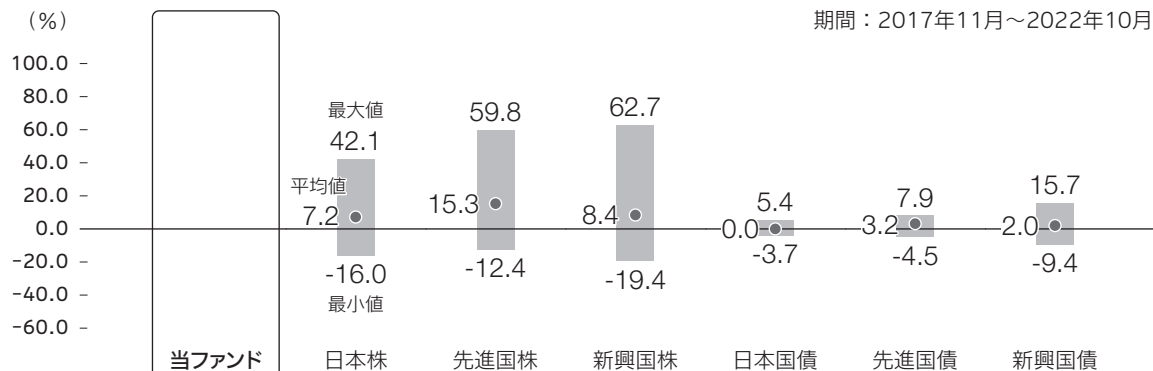
SNAM コルチェスター・エマージング債券マザーファンド

引き続き、コルチェスターのバリュエーションを重視したポートフォリオを構築することにより、信託財産の成長を目指して、積極的な運用を行います。

● 当該投資信託の概要

商品分類	追加型投信／内外／資産複合	
信託期間	無制限	
運用方針	信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を目指して運用を行います。	
主要投資対象	 SOMPOターゲットイヤー・ファンド2065 下記に記載のマザーファンド受益証券およびエマージング株式またはエマージング株式を主要投資対象とする証券投資信託	
	 損保ジャパン日本債券マザーファンド 日本の公社債	 損保ジャパン外国債券 (為替ヘッジなし) マザーファンド 日本を除く世界各国の公社債
	 SJAMラージキャップ・バリュース・マザーファンド わが国の株式	 SOMPO外国株式アクティブバリュース・マザーファンド (リスク抑制型) マザーファンド 日本を除く世界各国の株式
	 SJAMスモールキャップ・マザーファンド わが国の株式	 SNAM コルチェスター・エマージング債券マザーファンド 新興国の公社債
運用方法	① 国内外の株式や債券へ分散投資を行うことにより、リスクを軽減しつつ信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を目指して運用を行います。 ② 当初設定時は原則として基準資産配分比率に基づきポートフォリオを構築します。 ③ 安定運用開始時期に向けて株式への投資割合を漸減し、債券の投資割合を漸増し、原則として、安定運用期間の基準資産配分比率に基づきポートフォリオを構築し、リスクを低減する運用を行います。 ④ 安定運用開始時期以降は、原則として最大許容損失（フロア）を設定し、下落リスクを低減しつつ、安定した収益の確保を目指します。	
分配方針	毎決算時に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。 ① 分配対象額の範囲は、経費控除後の繰越分を含めた利子、配当収入と売買益（評価損益を含みます。）等の全額とします。 ② 収益分配金額は、委託会社が基準価額水準等を勘案して決定します。ただし、必ず分配を行うものではありません。	

● 代表的な資産クラスとの騰落率の比較



資料作成時において、当ファンドの運用期間が1年未満のため、当ファンドの年間騰落率を記載しておりません。

* 上記期間の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を、代表的な資産クラスについて表示したものです。

* 各資産クラスの指数

日本株	東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)
先進国株	MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円ベース)
新興国株	MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円換算ベース)
日本国債	NOMURA-BPI国債
先進国債	FTSE世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし・円ベース)
新興国債	JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイド (円ベース)

※ 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

- 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。
- 上記の騰落率は直近月末から60ヶ月遡った算出結果であり、決算日に対応した数値とは異なります。

指数に関する詳細は33ページをご参照ください。

当該投資信託のデータ

● 当該投資信託の組入資産の内容

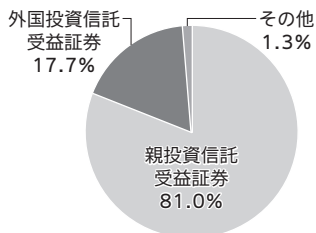
※ 組入銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）に記載されています。

組入ファンド

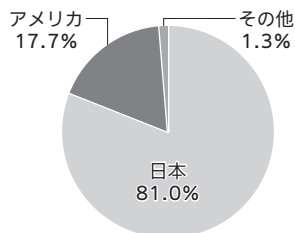
	第1期末 2022.11.2
S O M P O 外国株式アクティブバリュー（リスク抑制型）マザーファンド	36.0%
ISHARES CORE MSCI EMERGING	17.7%
S J A M ラージキャップ・バリュー・マザーファンド	17.6%
S J A M スモールキャップ・マザーファンド	17.6%
損保ジャパン日本債券マザーファンド	5.3%
損保ジャパン外国債券（為替ヘッジなし）マザーファンド	3.0%
S N A M コルチェスター・エマージング債券マザーファンド	1.7%

注. 比率は第1期末における純資産総額に対する評価額の割合です。

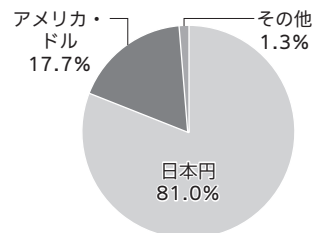
資産別配分



国別配分



通貨別配分



注. 比率は第1期末における純資産総額に対する評価額の割合です。

● 純資産等

項目	第1期末 2022.11.2
純資産総額	48,450,656円
受益権総口数	45,663,277口
1万口当たり基準価額	10,610円

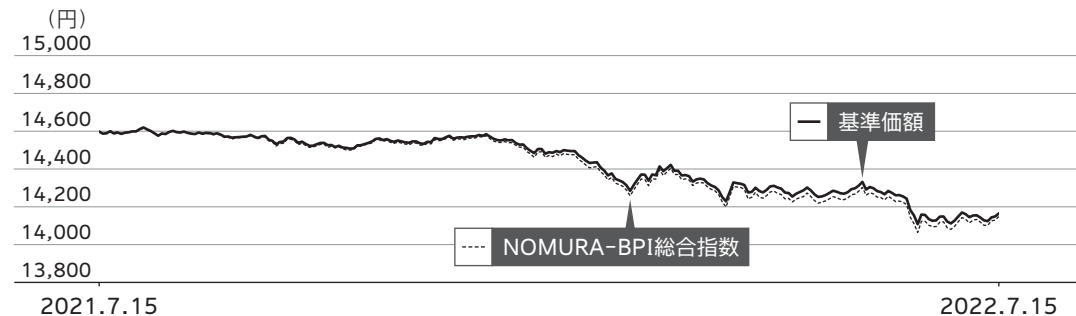
※ 当期中における追加設定元本額は42,919,958円、同解約元本額は2,256,681円です。

● 組入上位ファンドの概要

※ 組入ファンドの計算期間の詳細な運用経過等に関する詳細な情報については、運用報告書（全体版）に記載されています。

損保ジャパン日本債券マザーファンド

基準価額の推移



- ベンチマーク（NOMURA-BPI総合指数）の推移は、2021年7月15日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。

1万口当たりの費用明細

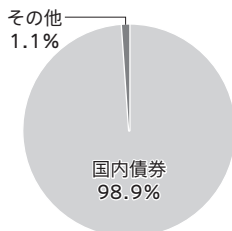
項目	2021.7.16～2022.7.15	
	金額	比率
その他費用	0円	0.000%
（その他）	(0)	(0.000)
合計	0	0.000

期中の平均基準価額は14,436円です。

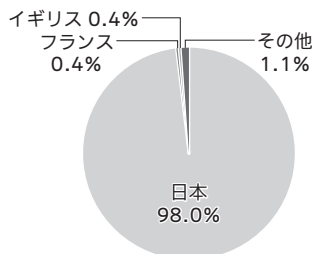
組入上位10銘柄

銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率
1 第351回利付国債(10年)	国債証券	日本円	日本	4.1%
2 第426回利付国債(2年)	国債証券	日本円	日本	3.9%
3 第143回利付国債(5年)	国債証券	日本円	日本	3.5%
4 第139回利付国債(5年)	国債証券	日本円	日本	3.4%
5 第150回利付国債(5年)	国債証券	日本円	日本	3.3%
6 第147回利付国債(5年)	国債証券	日本円	日本	3.1%
7 第346回利付国債(10年)	国債証券	日本円	日本	2.9%
8 第433回利付国債(2年)	国債証券	日本円	日本	2.7%
9 第145回利付国債(20年)	国債証券	日本円	日本	2.7%
10 第174回利付国債(20年)	国債証券	日本円	日本	2.7%
組入銘柄数		98銘柄		

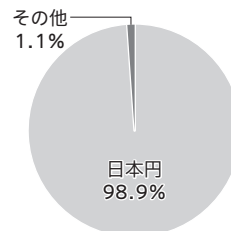
資産別配分



国別配分



通貨別配分



注1. 基準価額の推移は組入ファンドの直近の計算期間のものです。

注2. 1万口当たりの費用明細は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。なお、費用項目については前記(1万口当たりの費用明細の項目の概要)をご参照ください。

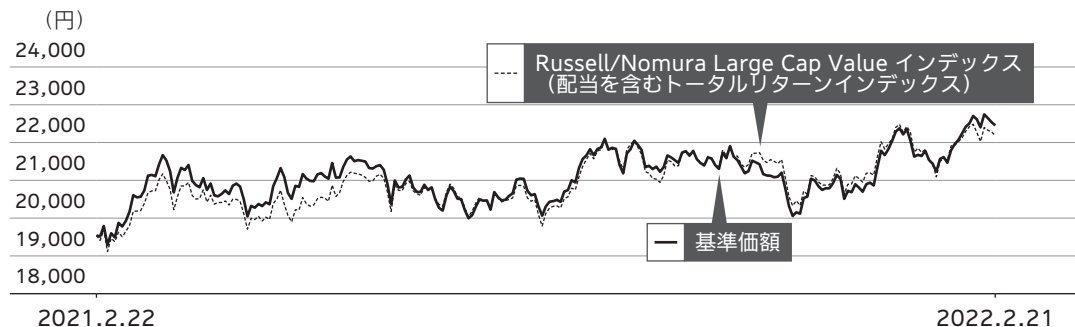
注3. 組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日(2022年7月15日)現在のものです。

注4. 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。



S J AMラージキャップ・バリュー・マザーファンド

基準価額の推移



- ベンチマーク（Russell/Nomura Large Cap Value インデックス（配当を含むトータルリターンインデックス））の推移は、2021年2月22日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。

1万口当たりの費用明細

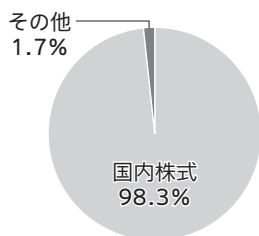
項目	2021.2.23~2022.2.21	
	金額	比率
売買委託手数料	27円	0.131%
(株式)	(27)	(0.131)
その他費用	0	0.000
(その他)	(0)	(0.000)
合計	27	0.131

期中の平均基準価額は20,751円です。

組入上位10銘柄

銘柄名	業種	通貨	国(地域)	比率
1 三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	日本円	日本	7.3%
2 三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	日本円	日本	5.5%
3 本田技研工業	輸送用機器	日本円	日本	4.4%
4 キリンホールディングス	食料品	日本円	日本	4.0%
5 日本製鉄	鉄鋼	日本円	日本	3.8%
6 第一生命ホールディングス	保険業	日本円	日本	3.7%
7 日本電信電話	情報・通信業	日本円	日本	3.7%
8 東レ	繊維製品	日本円	日本	3.5%
9 鹿島建設	建設業	日本円	日本	3.3%
10 武田薬品工業	医薬品	日本円	日本	3.2%
組入銘柄数		42銘柄		

資産別配分



国別配分



通貨別配分



注1. 基準価額の推移、1万口当たりの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のものであります。

注2. 1万口当たりの費用明細は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。なお、費用項目については前記（1万口当たりの費用明細の項目の概要）をご参照ください。

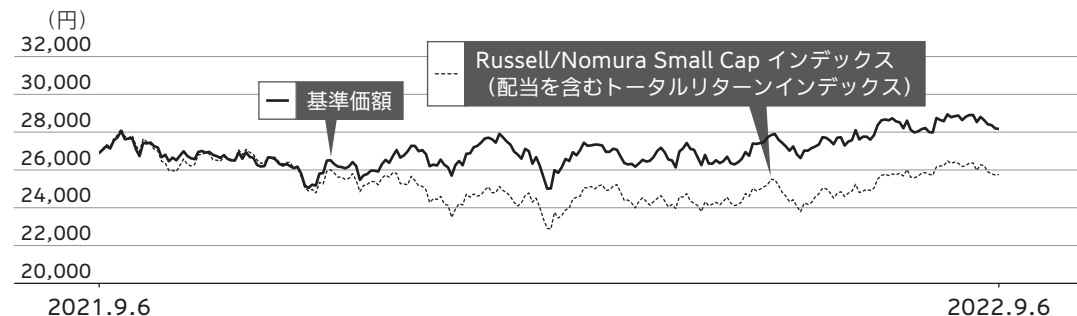
注3. 組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日（2022年2月21日）現在のものです。

注4. 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。



S J A Mスモールキャップ・マザーファンド

基準価額の推移



- ベンチマーク（Russell/Nomura Small Cap インデックス（配当を含むトータルリターンインデックス））の推移は、2021年9月6日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。

1万口当たりの費用明細

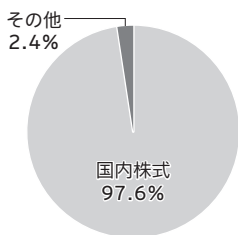
項目	2021.9.7~2022.9.6	
	金額	比率
売買委託手数料	28円	0.106%
(株式)	(28)	(0.106)
その他費用	0	0.000
(その他)	(0)	(0.000)
合計	28	0.106

期中の平均基準価額は26,980円です。

組入上位10銘柄

銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率
1 シチズン時計	精密機器	日本円	日本	4.0%
2 クレディセゾン	その他金融業	日本円	日本	3.1%
3 めぶきフィナンシャルグループ	銀行業	日本円	日本	3.0%
4 E I Z O	電気機器	日本円	日本	3.0%
5 八十二銀行	銀行業	日本円	日本	2.8%
6 森永乳業	食料品	日本円	日本	2.7%
7 日本テレビホールディングス	情報・通信業	日本円	日本	2.7%
8 エン・ジャパン	サービス業	日本円	日本	2.6%
9 伊予銀行	銀行業	日本円	日本	2.4%
10 ワコールホールディングス	繊維製品	日本円	日本	2.2%
組入銘柄数		85銘柄		

資産別配分



国別配分



通貨別配分



注1. 基準価額の推移、1万口当たりの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のものです。

注2. 1万口当たりの費用明細は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。なお、費用項目については前記（1万口当たりの費用明細の項目の概要）をご参照ください。

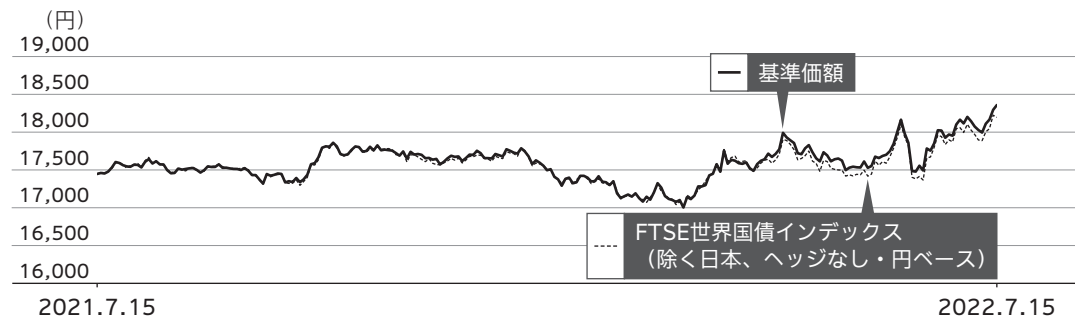
注3. 組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日（2022年9月6日）現在のものです。

注4. 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。



損保ジャパン外国債券（為替ヘッジなし）マザーファンド

基準価額の推移



- ベンチマーク（FTSE世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース））の推移は、2021年7月15日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。

1万口当たりの費用明細

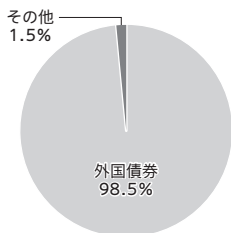
項目	2021.7.16~2022.7.15	
	金額	比率
その他費用	5円	0.029%
(保管費用)	(5)	(0.028)
(その他)	(0)	(0.002)
合計	5	0.029

期中の平均基準価額は17,619円です。

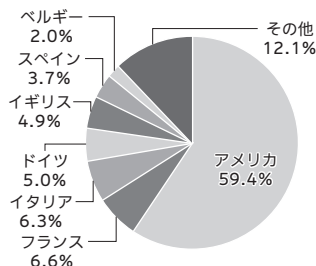
組入上位10銘柄

銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率	
1 Treasury 2.75 250228	国債証券	アメリカ・ドル	アメリカ	13.5%	
2 Treasury 2.125 250515	国債証券	アメリカ・ドル	アメリカ	9.5%	
3 Treasury 2.125 240229	国債証券	アメリカ・ドル	アメリカ	7.6%	
4 Treasury 2.75 280215	国債証券	アメリカ・ドル	アメリカ	5.8%	
5 Treasury 0.875 240131	国債証券	アメリカ・ドル	アメリカ	5.1%	
6 FRANCE 0.0 291125	国債証券	ユーロ	フランス	3.5%	
7 Treasury 2.25 270215	国債証券	アメリカ・ドル	アメリカ	3.2%	
8 Treasury 1.75 410815	国債証券	アメリカ・ドル	アメリカ	2.6%	
9 GERMANY 0.0 310815	国債証券	ユーロ	ドイツ	1.9%	
10 ITALY 2.8 281201	国債証券	ユーロ	イタリア	1.8%	
組入銘柄数		123銘柄			

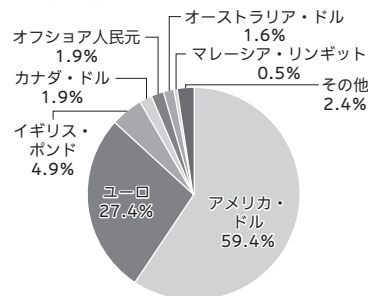
資産別配分



国別配分



通貨別配分



注1. 基準価額の推移、1万口当たりの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のものです。

注2. 1万口当たりの費用明細は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。なお、費用項目については前記（1万口当たりの費用明細の項目の概要）をご参照ください。

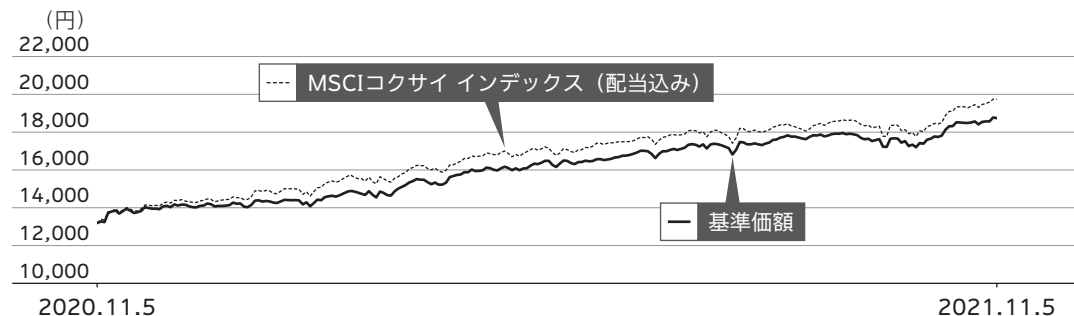
注3. 組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日（2022年7月15日）現在のものです。

注4. 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。



SOMPO外国株式アクティブバリュー（リスク抑制型）マザーファンド

基準価額の推移



- ベンチマーク（MSCIコクサイ インデックス（配当込み））の推移は、2020年11月5日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。

1万口当たりの費用明細

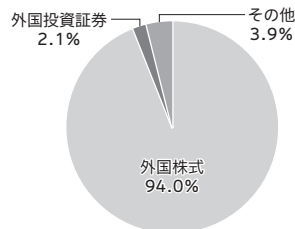
項目	2020.11.6～2021.11.5	
	金額	比率
売買委託手数料	9円	0.058%
（株式）	（ 9）	（0.056）
（投資信託証券）	（ 0）	（0.002）
有価証券取引税	3	0.017
（株式）	（ 3）	（0.017）
（投資信託証券）	（ 0）	（0.000）
その他費用	23	0.141
（保管費用）	（23）	（0.141）
（その他）	（ 0）	（0.000）
合計	35	0.216

期中の平均基準価額は16,188円です。

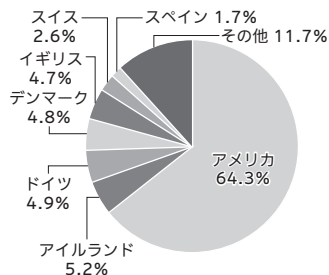
組入上位10銘柄

銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率	
1 APPLE INC	テクノロジー・ハードウェア および機器	アメリカ・ドル	アメリカ	4.7%	
2 MICROSOFT CORP	ソフトウェア・サービス	アメリカ・ドル	アメリカ	3.6%	
3 NOVO NORDISK A/S-B	医薬品・バイオテクノロジー・ ライフサイエンス	デンマーク・ クローネ	デンマーク	3.4%	
4 ADOBE SYSTEMS INC	ソフトウェア・サービス	アメリカ・ドル	アメリカ	3.0%	
5 ACCENTURE PLC-CL A	ソフトウェア・サービス	アメリカ・ドル	アイルランド	3.0%	
6 JOHNSON & JOHNSON	医薬品・バイオテクノロジー・ ライフサイエンス	アメリカ・ドル	アメリカ	2.8%	
7 HOME DEPOT INC	小売	アメリカ・ドル	アメリカ	2.7%	
8 ROCHE HOLDING AG-GENUSSCHEIN	医薬品・バイオテクノロジー・ ライフサイエンス	スイス・フラン	スイス	2.6%	
9 S&P GLOBAL INC	各種金融	アメリカ・ドル	アメリカ	2.5%	
10 AMAZON.COM INC	小売	アメリカ・ドル	アメリカ	2.1%	
組入銘柄数		97銘柄			

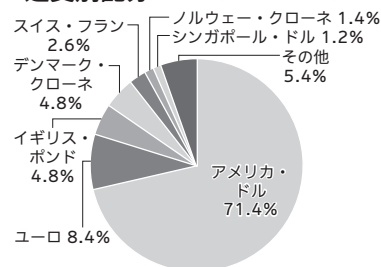
資産別配分



国別配分



通貨別配分



注1. 基準価額の推移、1万口当たりの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のものです。

注2. 1万口当たりの費用明細は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。なお、費用項目については前記（1万口当たりの費用明細の項目の概要）をご参照ください。

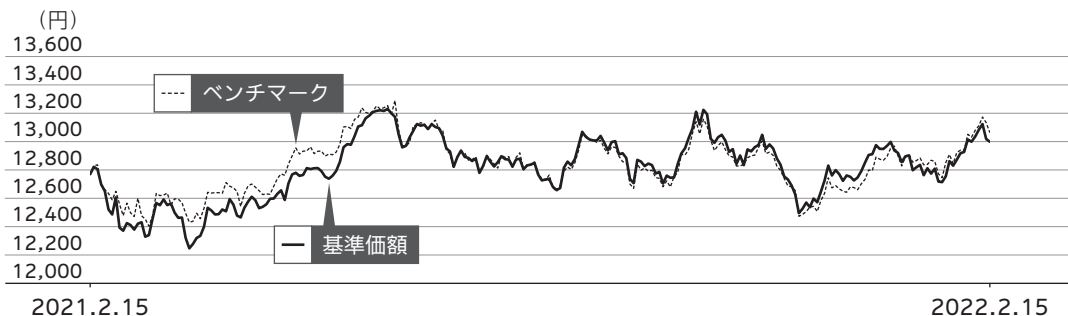
注3. 組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日（2021年11月5日）現在のものです。

注4. 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。



SNAM コルチェスター・エマージング債券マザーファンド

基準価額の推移



- ベンチマーク（JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディバースィファイド（除くBB-格未満・ヘッジなし））の推移は、2021年2月15日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。

1万口当たりの費用明細

項目	2021.2.16~2022.2.15	
	金額	比率
その他費用	34円	0.266%
(保管費用)	(33)	(0.261)
(その他)	(1)	(0.005)
合計	34	0.266

期中の平均基準価額は12,787円です。

スワップ及び先渡取引残高

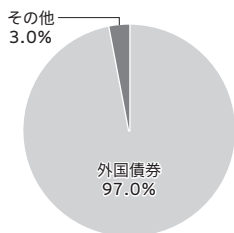
種類	当期末取引契約残高
直物為替先渡取引	1,525

注. 金額の単位未満は切捨て。

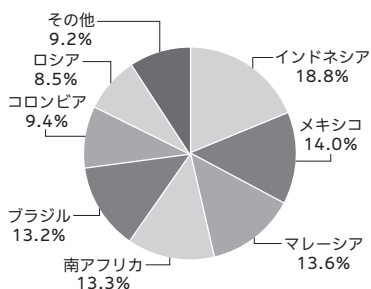
組入上位10銘柄

銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率	
1 S-AFRICA 8.75 480228	国債証券	南アフリカ・ランド	南アフリカ	4.0%	
2 BRAZIL 10.0 310101	国債証券	ブラジル・レアル	ブラジル	3.9%	
3 BRAZIL 10.0 230101	国債証券	ブラジル・レアル	ブラジル	3.1%	
4 POLAND 1.25 301025	国債証券	ポーランド・ズロチ	ポーランド	2.9%	
5 BRAZIL 10.0 290101	国債証券	ブラジル・レアル	ブラジル	2.8%	
6 MEXICO 10.0 241205	国債証券	メキシコ・ペソ	メキシコ	2.8%	
7 INDONESIA 8.375 340315	国債証券	インドネシア・ルピア	インドネシア	2.7%	
8 MEXICO 8.5 290531	国債証券	メキシコ・ペソ	メキシコ	2.7%	
9 S-AFRICA 8.75 440131	国債証券	南アフリカ・ランド	南アフリカ	2.5%	
10 INDONESIA 8.125 240515	国債証券	インドネシア・ルピア	インドネシア	2.2%	
組入銘柄数		72銘柄			

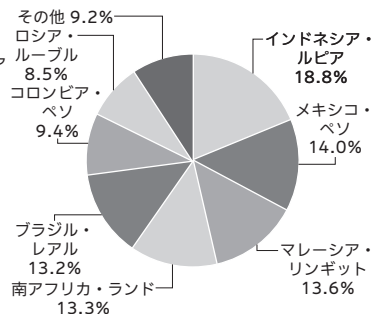
資産別配分



国別配分



通貨別配分



注1. 基準価額の推移、1万口当たりの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のものであります。

注2. 1万口当たりの費用明細は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。なお、費用項目については前記（1万口当たりの費用明細の項目の概要）をご参照ください。

注3. 組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日（2022年2月15日）現在のものです。

注4. 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

● 指数に関して

「代表的な資産クラスとの騰落率の比較」に用いた指数について

■ 東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、配当を考慮したものです。なお、TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は株式会社J P X総研又は株式会社J P X総研の関連会社に帰属します。

■ MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

■ MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円換算ベース）

MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、米ドルベース）をもとに委託会社が独自に円換算しています。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

■ NOMURA-BPI国債

野村證券株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA-BPI国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村證券株式会社に帰属します。

■ FTSE世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）

FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、FTSE世界国債インデックスに関する著作権等の知的財産その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。

■ JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイド（円ベース）

J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。

ホームページにて当ファンドの詳細をご案内しております。

SOMPOターゲットイヤー・ファンド2065

検索

<https://www.sompo-am.co.jp/fund/7064/price.html>

SOMPOアセットマネジメント | ENGLISH | SOMPOホールディングス

文字サイズ 大 中 小

ホーム Home | ファンド情報 Fund Information | マーケット・ファンドレポート Market & Fund Report | 当社の資産運用 Our Business | 会社情報 About Us

HOME > ファンド情報 > SOMPOターゲットイヤー・ファンド2065 (愛称: ハッピーボヤージュ2065)

追加型投信/内外/資産適合

SOMPOターゲットイヤー・ファンド2065
(愛称: ハッピーボヤージュ2065)

日本経済新聞掲載名: ターゲット65

交	交付目論見書 (2022.03.18)	月	最新月次レポート (2022.10.31)	休	海外休業日 (申込不可日) 2022年
請	請求目論見書 (2022.03.18)				

ピックアップファンド

基準価額一覧 | ファンドの特色 | 投資リスク | お申し込みメモ・手数料 | 販売会社

各書類の最新版をご確認いただけます。

交

交付目論見書

当ファンド購入に際して投資判断に必要な重要事項をご説明しております。

月

最新月次レポート

当ファンドの運用状況を月次でご説明しております。

休

海外休業日 (申込不可日)

購入・換金の申込不可日をご案内しております。

請

請求目論見書

交付目論見書より詳細な当ファンドの情報をご説明しております。

本報告書作成時点のものを掲載しております。